

## 挑戦—未来を切り開く力—

越谷北高等学校長 下山 忍

あけまして、おめでとうございます。平成26年、2014年が幕を開けました。今のところ、大きな事故の報告も受けていません。皆さんが元気に登校し、こうやって顔を見せてくれていることを大変嬉しく思います。

さて、先ほど、私は「おめでとうございます」と言いましたが、お正月はなぜおめでたいのでしょうか。答えを先に言ってしまうと、元気をもらうから「おめでたい」のです。我が国では、古くから、正月には「年神さま」がやってきて新しい力を私たちの魂に授けてくれると考えていたようです。お正月と言えば、門松を立て、鏡餅をお供えますが、門松は年神さまの目印、丸いお餅は魂の形をかたどったという説もあります。

短いようでも1年間の間にいろいろなことがあります。私たちの魂も、その都度、疲れてすり減っていくのだそうです。植物の1年間を考えてもらうと分かりやすいかもしれません。春に芽吹き、夏に青々と茂り、秋に実りますが、冬には枯れていきます。人間も植物と同じように、その1年間のサイクルを送っています。そして、枯れていた植物が春に芽吹くように、私たちの魂も新しい生命力を更新するので、お正月のことを新春とも言います。現在、お正月は、寒い冬ですが、旧暦＝古い暦では春だったのです。お正月に新しいパワーをもらって再生するので、私たちは、お互いに「おめでとう」と祝いあっているということです。昨年が、よい年だった人も、今ひとつだったなあという人も、お正月になって、新しいパワーをもらったわけですから、元気に平成26年、2014年を踏み出しましょう。

さて、今日は「未来に向かって頑張ろう」というお話をしたいと思います。最近、宇宙飛行士の若田光一さんのインタビュー記事を読む機会がありました。皆さん、ご存じのように、若田さんは埼玉県出身です。さいたま市（当時は大宮市）に生まれ、県立浦和高校の卒業生です。宇宙飛行はすでに4回経験し、今後ISS（国際宇宙ステーション）で、日本人初の船長を務めることになっています。1969年にアポロ11号が初めて月に着陸しました。これはとても大きなニュースでしたが、当時5歳だった若田さんも、この時に宇宙に対する憧れを持ったそうです。しかし、その頃は、宇宙飛行士になれるのはアメリカや旧ソ連の人たちだけでした。若田さんが宇宙飛行士となる転機となったのは、偶然見つけた「宇宙飛行士募集」の新聞記事だったそうです。その頃、若田さんは、大学院で応用物理学を学び、日本航空で航空機の技術開発に携わっていました。かな

り優秀な技術者だったとも聞いていますが、子どもの頃の夢がよみがえり、その仕事を辞め、宇宙飛行士に応募したとのことでした。

若田さんは次のように言っています。「やはり大切なのは、目標に向かって、失敗してもくじけずに努力していくことではないかと思います。目標を掲げることによって、自ずと道筋が分かってきますし、それに向かって努力することで、例えそれが失敗につながったとしても、そこから学んだことが将来必ず役に立つ、人生の糧になると思います。私の場合は、技術者としてやってきたことが宇宙飛行士につながりました。これまでの経験で学んだことは、次の人生のステップに大きく役に立つと思っています。」この若田さんの言葉の中からは、「夢を捨てないこと」、「夢を目標にすること」、「その目標に向かって努力することの大切さ」、そうしたメッセージが読み取れました。

第3学期は、生徒の皆さん、それぞれが、次のステージに向かって大きくステップする時期にあたります。一人一人が大きく飛躍することを期待しています。

(平成26年1月8日 第3学期始業式講話より)